

第30回愛知学院大学モーニングセミナー

「夢はうつつか?…」
-うつを夢からみてみると…
こころのからくりを見てみよう-

愛知学院大学 心身科学部
教授 江口 昇勇

2008年9月9日

夢のはたらき

- ある大学教授の夢
 - ・攻撃性を抑えていると、夢で殺人をしないといけない
 - ・夢は特別に解釈などしなくても、日常生活で無理した生き方をしていると、そのバランスをとるために毎夜、夢の仕事(ドリーム・ワーク)をしている
- 断夢実験から分かること
 - ・夢を見ないと人間は不安定になり、危機状況を迎える
 - ・夢をよく覚えている人、夢を記録できない人

夢解釈の理論的背景

1. 精神分析学; S, Freud

1) 無意識の存在を仮定

2) 無意識(個人的無意識)を実感するとき

①失錯行為; ど忘れ、勘違い、言い・聞き間違い

②無くて七癖

③酔っぱらいの本性

④二重人格 = 解離性人格障害の説明

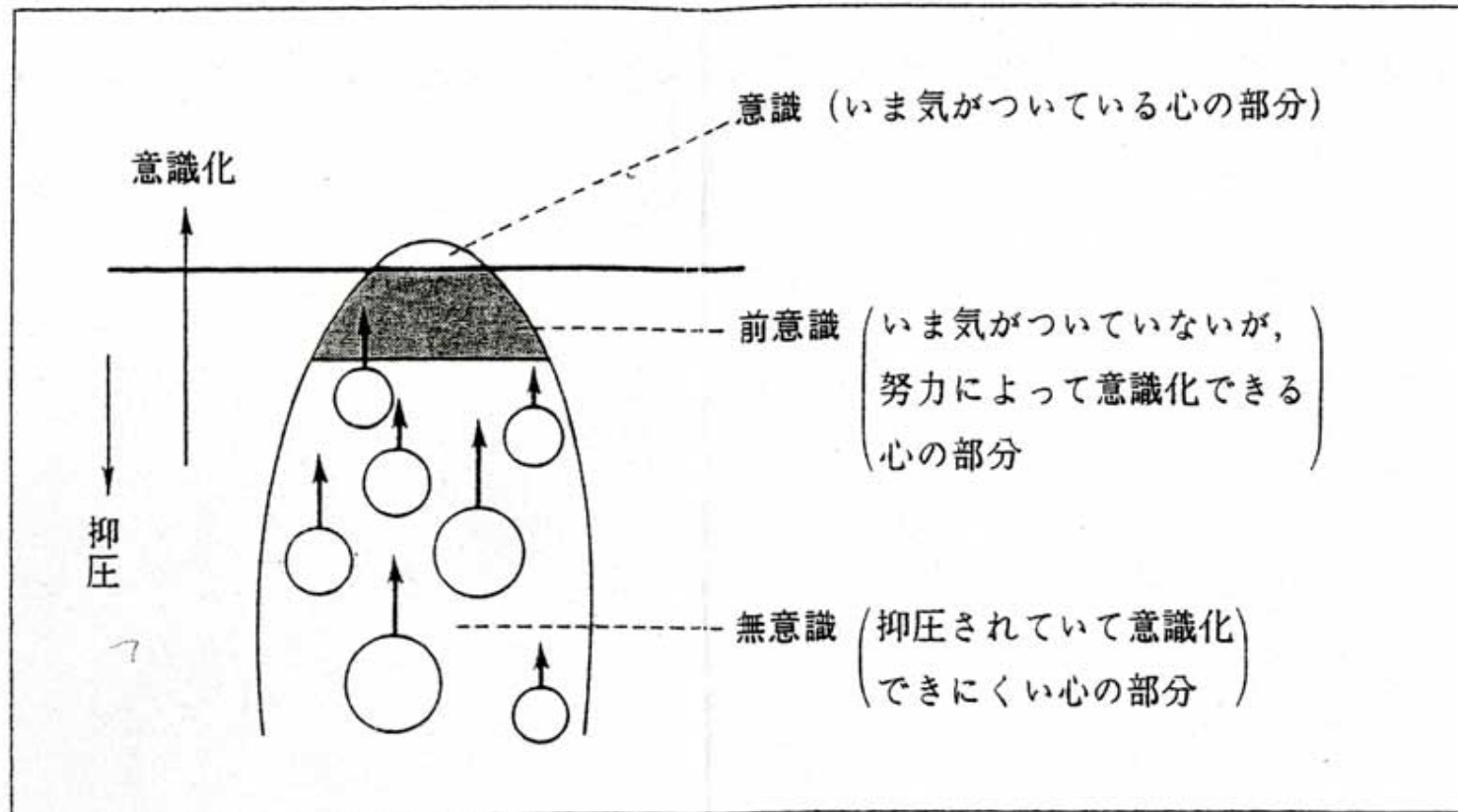
2. 分析心理学(深層心理学)

無意識に普遍的無意識の次元を設定

こころの構造とからくり ～フロイトの考える心的装置～

心の局所論・人格の三層説

- 1) エス・・・本能衝動、ききわけのない赤ちゃん
- 2) 自我・・・調整役、情報処理のコンピューター
- 3) 超自我・・・良心、あるべき理想の自分像



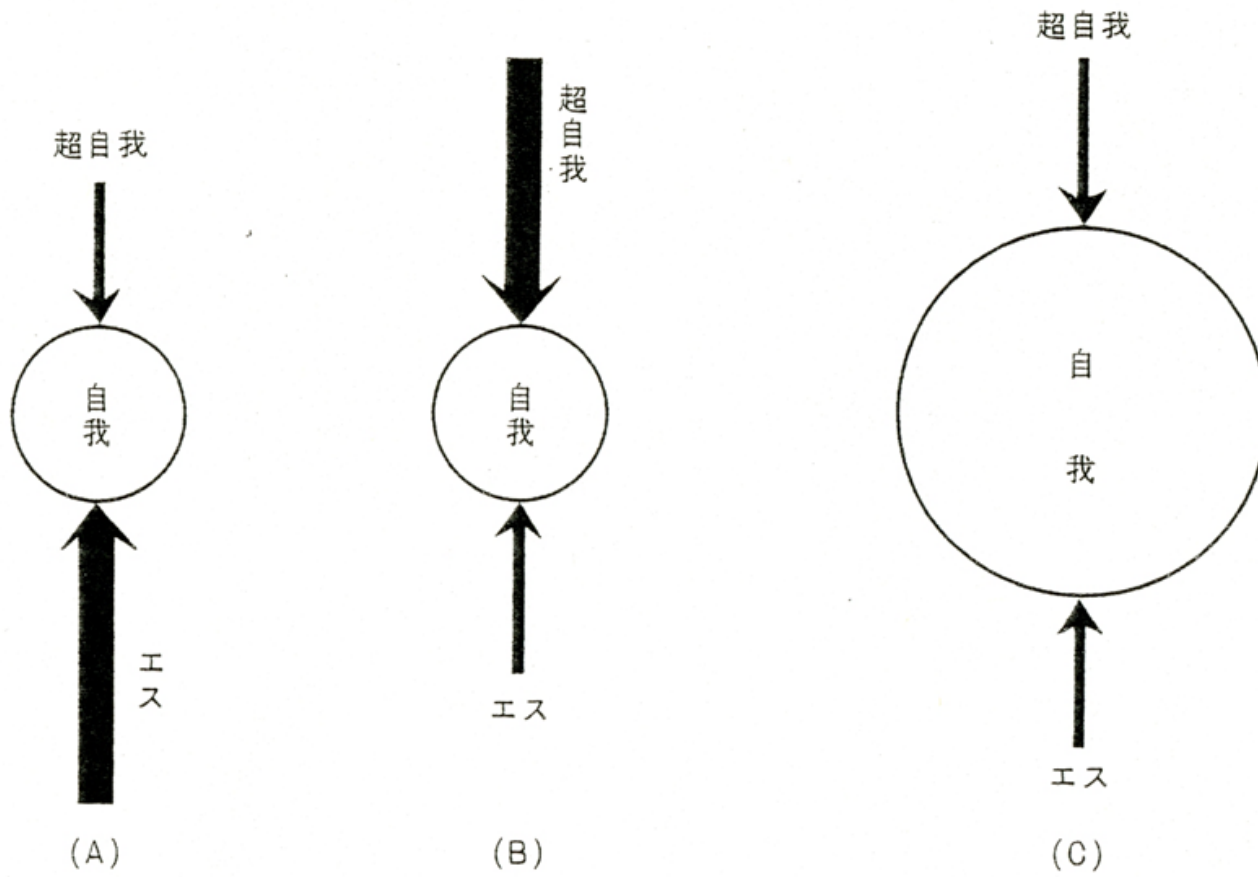
心の局所論

「図説 臨床精神分析学」前田重治著 1985年 誠信書房

構造論（人格の三分論:三層説）

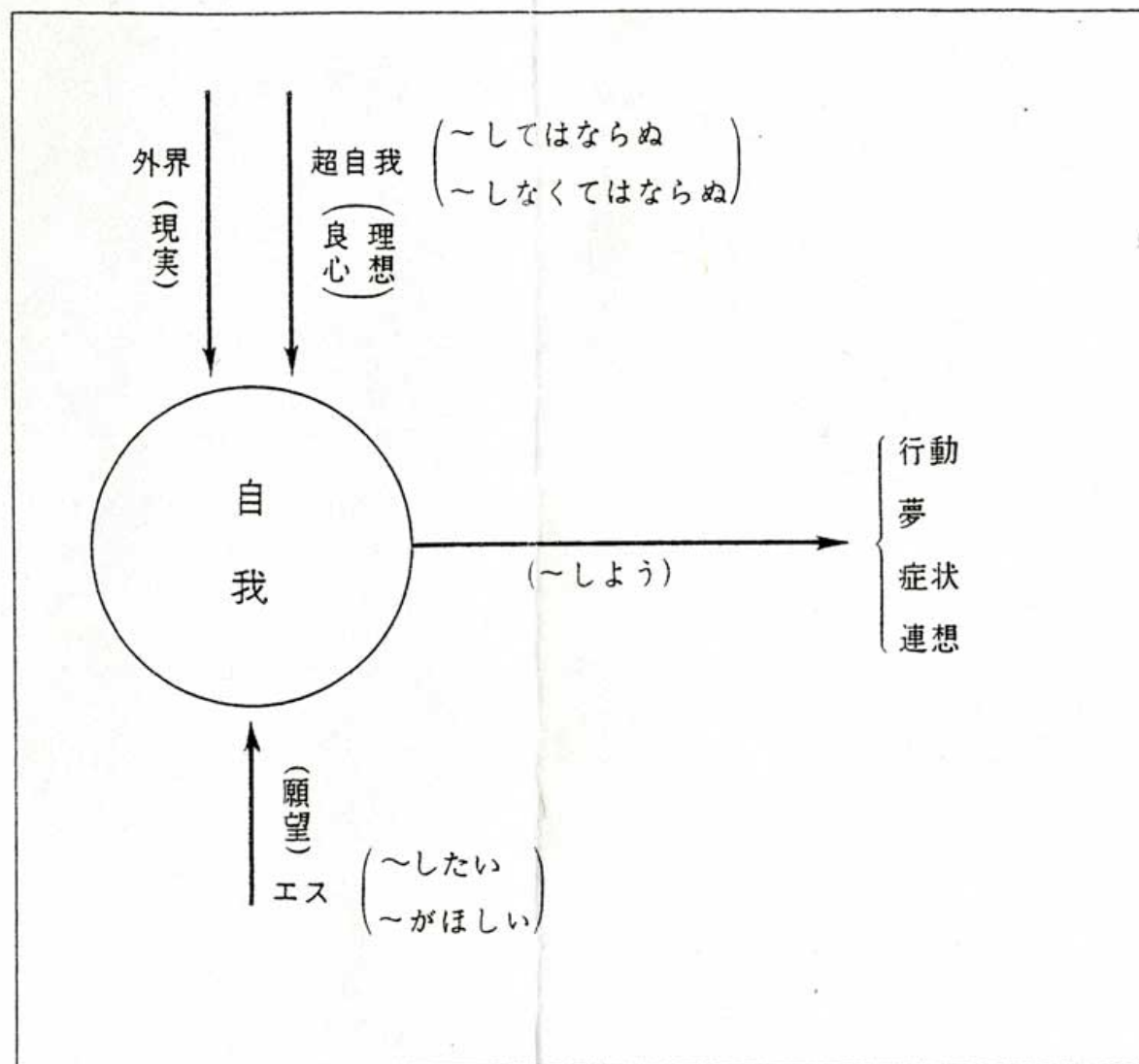
領域	内容 と 機能
イド (エス) (id : Es)	<p>無意識的なものの代表—(a)幼児期以来、抑圧されたもの(固有の抑圧)、(b)古い祖先の時代から抑圧され受けつがれてきたもの(原始的抑圧)が貯留している領域</p> <p>(1)本能エネルギー(リビドー)の貯蔵庫→対象充当 〈～したい〉、〈～がほしい〉</p> <p>(2)一次過程が支配(現実、時間、秩序の影響をうけない)</p> <p>(3)快感原則が支配(衝動の即座の満足追求)</p>
自我(ego : Ich)	<p>外界とエスを仲介する領域(心の中心部分)</p> <p>(1)現実原則が支配(知覚機能—現実吟味)</p> <p>(2)二次過程が支配(知覚、注意、判断、学習、推理、想像、記憶、言語などの現実的思考)</p> <p>(3)逆充当(エスの外界への突出の見張り)、〈一寸待て〉</p> <p>(4)不安(現実、エス、超自我からのおびやか—危険信号)の防衛、処理</p> <p>(5)統合機能(適応機能—パーソナリティの統合)</p>
超自我(super-ego : Überich)	<p>幼少期の両親のしつけの内在化されてできた領域</p> <p>(1)良心の禁止〈～してはならない〉</p> <p>(2)理想の追求〈～であれ〉、〈～しなくてはならぬ〉</p>

「図説 臨床精神分析学」前田重治著 1985年 誠信書房



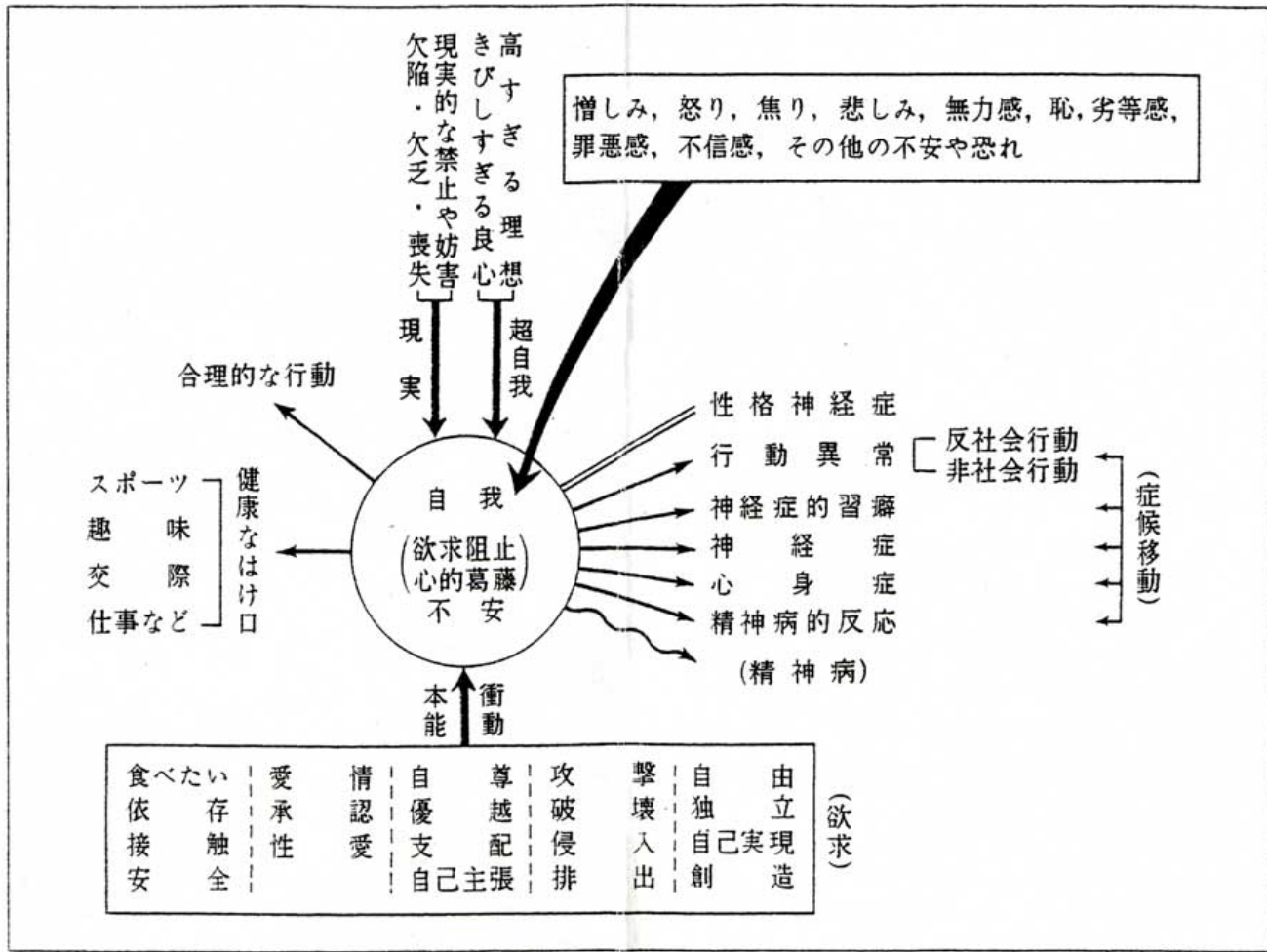
經濟論

「図説 臨床精神分析学」前田重治著 1985年 誠信書房



力動論

「図説 臨床精神分析学」前田重治著 1985年 誠信書房



心の力学

「図説 臨床精神分析学」前田重治著 1985年 誠信書房

おもな防衛機制(神経症的防衛)-1

種類	内容	意識のレベル	病的	健康者
抑圧	苦痛な感情や欲動, 記憶を意識から閉め出す。	抑制(禁圧) 臭いものにフタ	○	△
逃避	空想, 病氣, 現実, 自己へ逃げ込む。	回避 逃げるも一手	○	△
退行	早期の発達段階へ戻る。幼児期への逃避。	童心に帰る	○	○
置き換え (代理満足)	欲求が阻止されると, 要求水準を下げて満足する。	妥協する	△	○
転移	特定の人へ向かう感情を, よく似た人へ向けかえる。		○	△
転換 昇華	不満や葛藤を身体症状へ置きかえる。 反社会的な欲求や感情を, 社会的に受け入れられる方向へ置きかえる。	もの言わねば腹ふくる	○	○
補償	劣等感を他の方向でおぎなう。	碁で負けたら将棋で勝て		○
反動形成	本心とウラハラなことを言ったり, したりする。	弱者のつっぱり	○	△
打ち消し	不安や罪悪感を別の行動や考えて打ち消す(復元)	やり直し	○	△